

情報集約弱く 米に伝わらず



長島昭久・衆院議員

【米国との情報共有】

「18日朝にアメリカの原子力規制委員会が東電に初めて来た。彼らは、どこへ行けば正確な情報が入るかなど、非常に困っていた。僕は細野補佐官に『これは相当やばいんじゃないの』と言った」

——当初、米側にほとんど情報が入っていなかった。なぜそんな状況になったか。

「日本の官邸の情報集約機能が弱い。日本の役所は平時モードだ。別の言葉で言うところだ。いろいろ道具立ては官邸にあるが、やはりグリップが弱い。まず全部官邸に集約してそこで誰か、たとえば副長官なら副長官がトップになって、米側と交渉する。そういうことが少なくともシステムチェックにできていなかった」

米側との連携がうまくいかないのが、ルース大使はじめ米側は少しいらだっているという話が私に上申されたので、私が官邸で総理に米国との関係がよくないようだと話したら、実はそうだと言って、実は前から頼もうと思っていたが、防衛大臣の方で調整してくれないかと」

「米側はあらゆる支援を惜しまないから何でも要望を言ってほしいと、我々は同盟国ですよと非常に強調していた。日頃、日米安全保障条約で同盟関係を結んでいるが、危機にならないと実感として同盟関係は感じない。だから、このときには本当の同盟国とかなりはつきり意識した」